

小澤圭次郎 けいじろう 洋學者、漢詩人、庭園研究家。天保十二年四月江
戶（桑名藩築地下屋敷）生れ（一八四一）。幼名彌三、通稱鶴次郎、圭
齋。號晚樂齋。侍醫小澤長安の次男。芳野金陵に學ぶ、幕府侍講成島
柳北の塾に寄食。長崎に赴き蘭學を學ぶ、歸つて再び成島塾で詩文
を學ぶ。次で官に醫學所に入り蘭方外科醫學を修む。時に英學勃興、
當に成島塾に英學を學び、自ら英學塾を待合を開いた。維新後、箕作
秋坪の二又學舎で漢籍を教授。爾後文部省字書取調掛、東京師範學校
校長補、東京學士院書記等歴任、明治十九年葬。

また漢學の造詣深く最も詩文に長け、大正八年までの作品二千二百餘
首を収めた。「晚成堂詩草」十五卷の草稿を残した。一方官務の傍ら庭
園の研究に勤しみ、「園林叢書」（附圖五六百種）と題した等身小及
小草稿は、帝國圖書館が買上げ收藏。